

～移動販売車による地魚の流通促進と地域活性化～

山口県漁業協同組合（山口県萩市）

目詰まりの現状

市場統合により拠点市場化を図ったものの、水揚げの低迷も重なり、買受人の廃業は避けられず、統合前100名ほどいた指定業者は18名に激減。大量水揚げ時には餌料として安価に取引されたり、1箱に満たない規格外魚は、自家消費されている現状である。

一方、地域の消費者は、地元の高鮮度の魚を求める声は多いものの、高齢化が進み、マイカーがないと、買い物もできない状況が発生している。

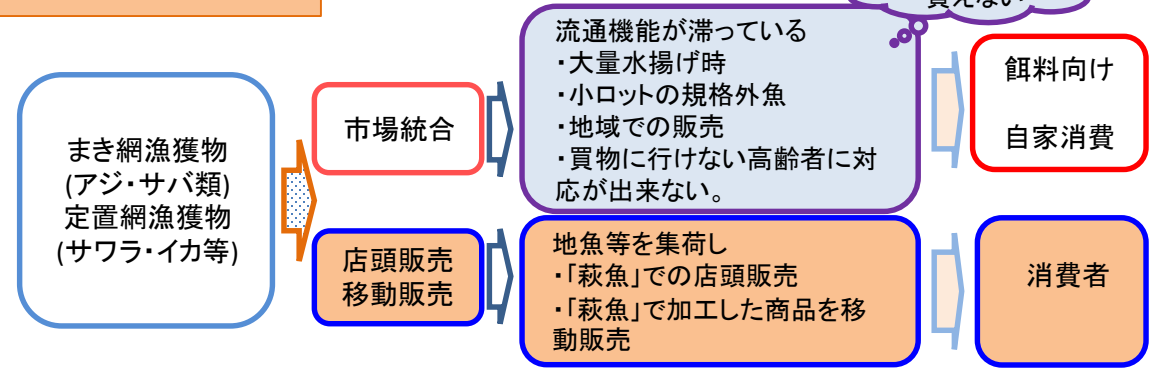
プロジェクトの概要

- ・ 移動販売車を導入し、地域で流通しづらい魚を集荷し、消費者に直接販売する体制を構築。
- ・ 拠点である漁協直営店「萩魚」に、シャリ玉成型機・ガス炊飯器・製氷機・計量値付機を導入し、鮮魚のみならず加工品の製造にも取り組む。
- ・ 萩市を中心に2つのエリアに分かれて、買い物弱者等へ販売。
- ・ 漁協女性部が加工した製品を販売するとともに、現地販売員として協力を得た。

取組による成果

- ・ 定期的な販売を行うことで固定客への販売が大半となっている。
- ・ ハシの日の刺身盛り合わせやブランドイカなどの事前注文も増えており、消費者からの評価も得られ、欠かせない存在となっている。
- ・ 山間地への販売ルート拡大によりさらなる水産物消費拡大を模索中。

プロジェクトフロー



移動販売車



製氷機



(平成29年3月現在)